



東日本へ

この思い届け

### がんばろう日本・がんばろう学舎



佐藤指導員プロデュースによる垂れ幕は、聖火の点火とともに選手の頭上にはためき、見上げる人々からは歓声があがった。

垂れ幕は写真(左)のようになりの大作。制作時もさぞかし苦労したのではと、担当の生活情報コースに尋ねたところ、皆さんからは意外にも「楽しかったよ」という声。コースでひとつのことに取り組む醍醐味を味わった様子がうかがえた。

また、中央の燃え盛る聖火は文化伝承コース・弥永さんが描いたもの。

## 11年 観戦記

### 押し込みの裏技です

〜アンパンにほえる〜

はしごをくぐって、走り縄跳びをした時点で、選手たちはその持てる力の9割方を使い果たしていた。

最後のミッション、アンパンに食らいつくのは、思った以上に困難を極めた。疲労と揺れるロープでなかなか口の狙いが定まらないのだ。思わず手が出たその瞬間、実行委員から「手使ったらいけませんよ」の声が。



### 気持ちは籠に 玉は外に

〜玉入れ〜

皆さん、毎度おなじみの「玉入れ」。しかし、なにせ年一回



の出番。距離感が計れず、歯がゆい思いをされたのでは？

籠の真下から垂直ぎみに複数の玉を同時に投げ入れる、なんてコツがあるとか、ないとか。季節ものですので、来年も出場を果たして、ぜひ、お試しいただきたい。

### 押し込みの裏技です

〜手をつなぐ〜



### 美しき女の闘い

〜フルマソン1000〜

♪「マル・マル・モリ・モリ！」のテーマにのって、研修生とお孫さんが手に手を取り、ゴールを目指す競技ーのはずが、概ね、研修生の皆さんがお孫さんにリードされていた様子。

前田さん(国際情報)からは、「孫探し、苦労しました。我われ年代は小さい孫はいないし、探しても見つからないし、困りました。集まった少ない孫たちが年長者以上に競技を盛り上げてくれて嬉しかった」なんて感想も寄せられています。

いすれにしても、スペシャルサンクス・小さな選手たち！



それは、42.195kmを駆け抜ける闘い…。

ウォーミングアップのし過ぎなのか？いや、単に勢い余ってしまったのか？転倒者もちらほら見受けられる中、見よ、駆け抜けて、ゴールテープを切る、この満面の笑みを。カッコいい！